

琉球大学学術リポジトリ

巻頭言

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2018-07-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩俣, 繁久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41047

巻頭言

狩俣 繁久（グローバル教育支援機構 開発室長）

平成 3 年（1991 年）の大学設置基準の大綱化を機に始まった大学改革のなかで、琉球大学の教養部が平成 9 年（1997 年）3 月に廃止されて 20 年経ちました。

教養部廃止以降の琉球大学の共通教育は、平成 9 年（1997 年）4 月に設立された大学教育センターを中心に、旧教養部から各学部配分された共通教育に必要な教員定員（ノルマ換算ポスト）を全学教育委員会が管理し、科目提供責任学部等および各教員の不断の努力によって、共通教育科目の質と量が確保されて運営されてきました。

共通教育科目の科目区分に琉大特色科目、専門基礎科目を新設したり、キャリア関係科目の充実もありました。地域創生科目群の追加により、琉大特色・地域創生の名称変更も行いました。共通教育科目を提供する教員も学生や社会のニーズに応えるべく講義内容を工夫したり講義内容に合わせて科目名を変更したりしてきました。分属ポスト教員以外の教員による新たな科目の開設もありました。共通教育の運営や科目の提供に不便や困難が無かったわけではありませんが、他大学に比べて十分な質と量の科目を学生に提供できていたのではないかと考えます。

この間、学部や学科の改組、分属ポスト教員の定年等に伴う教員の入れ替え、教員ポストの削減等があり、共通教育をめぐる環境が大きく変化しました。農学部、工学部、教育学部の改組がありました。来年度には法文学部と観光産業科学部が国際地域創造学部と人文社会学部に統合改組されます。

大学教育の質的転換に関する中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を養成する大学へ～」(平成 24 年)が出されてから 5 年になります。いままた、高大接続改革に向けた取り組みも始まっています。

今年 6 月 23 日にグローバル教育支援機構が主催してシンポジウム「琉球大学共通教育のこれから」を開催し、共通教育の実施体制の見直しを含めた共通教育のあり方について意見交換をしました。共通教育の科目は、教養領域、総合領域、基幹領域の三つの領域に分れ、それらがさらに九つの科目群に分かれています。専門基礎科目も共通科目として組み込まれています。時代の変化に対応しながら必要な科目を開設しながら新たな科目群を設定してきましたが、リベラル・アーツとしての共通教育の基本に立ち返り、URGCC を踏まえつつ細分化した科目群を見直す必要があります。「ノルマ換算ポスト」は共通教育を運営していくうえで大きな役割を果たしてきましたが、その一方で、部局等の教員人事の足枷になっていた面もあります。共通教育運営の負担に対する不公平感もあります。共通教育の質と量を担保したうえでノルマ換算ポストを解消して柔軟な科目提供を可能にし、共通教育科目の領域と科目群の再編を行わなければなりません。そしてそれは、これからの社会で求められる人材、これからの社会を創る人材が育つためのものでなければなりません。グローバル教育支援機構と各部局の協力のもとで実施される琉球大学の共通教育を方向づける重要な改革です。